

# 社会情動的スキルの涵養を目的とした実践的研究

## －汎用的なリフレクションに着目して－

多田 恵子 （ 埼玉大学 ）

### 1. 目的

本研究の目的は、社会と学校が共通して育成することがもとめられている「社会情動的スキル」を児童と教員間で共有化し、教科横断的に活用できるリフレクションの手法を検討することである。

### 2. 研究方法

筆者は、抽象的で曖昧な「社会情動的スキル」を児童の学びの姿（行動指標）にまで具体化することにした。さらに、「社会情動的スキル」の内容の具体化と実現状況の判断を可能にする方法として、アセスメントシートと教科横断的なリフレクションシートを活用し、検証を試みた。

1) 対象者：N小学校4年A組（男性17名、女性18名）の計35名

2) 調査時期：2021年6月～7月

3) 実践方法：授業者は、授業実践を通して児童に育成したい「社会情動的スキル」を、算数では「目標の達成」「他者との協働」「感情のコントロール」、体育では「目標の達成」「他者との協働」と設定し、授業実践を行った。児童は、毎回の授業後に今日の自分の姿について、リフレクションシートに振り返りの記入を行った。また、児童は、算数と体育の授業実践の前後で自己評価シート（中山2020）に回答を行った。

4) 分析方法

#### ①自己評価シートによる量的分析

自己評価シートの「目標の達成」5項目、「他者との協働」5項目、「感情のコントロール」5項目をそれぞれ合計したものを因子とした。それらの3つを従属変数とし、性別と時期（授業前、授業後）を独立変数として2要因分散分析を行った。

#### ②テキストマイニングによる記述データの分析

リフレクションシートの記述文の分析には、テキストマイニングの分析ソフトKH Coderによる分

析を行い、共起ネットワーク図の描画を行った。

### 3. 結果と考察

#### 1) 自己評価シートの結果と考察

算数については、「目標の達成因子」と「他者との協働因子」でリフレクション授業の効果があらわれていた。その一方で、体育については、いずれの因子でも有意差は認められなかった。

#### 2) リフレクションシートの結果と考察

算数と体育におけるリフレクションシートを活用した授業において、各教科で目指す「児童の姿」を行動指標にまで具体化し、児童と教員間で共有化することで、「社会情動的スキル」を意識化することができた。

### 4. まとめ

本研究の成果としては以下の3つである。

1) 曖昧で抽象的な「社会情動的スキル」を児童と教員間で共有化し、意識化できるリフレクションシートを作成することができた。

2) リフレクションシートの作成手順として、アセスメントシートを作成したことが、曖昧で抽象的な「社会情動的スキル」を具体化し、教員の意識化が図られることがわかった。

3) 算数と体育において、本研究におけるリフレクションの手法が、同じ様に活用できたことによって、教科横断で活用できるリフレクションの手法を比較検討することができた。

### 5. 主な参考文献

- 1) 経済協力開発機構（OECD）編著（2018）社会情動的スキルー学びに向かう力。明石書店：東京
- 2) 中山芳一（2020）家庭、学校、職場で生かせる！自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ。東京書籍：東京